

# 大規模災害時における 福祉サービス事業所の 事業継続計画(BCP)について

特定非営利活動法人ゆめ風基金理事

八幡隆司

# BCPとは

**災害などリスクが発生したときに重要業務が中断させない。また、万一事業活動が中断した場合でも、目標復旧時間内に重要な機能を再開させ、業務中断に伴うリスクを最低限にするために、平時から事業継続について戦略的に準備しておく計画です。**

# もしもヘルパー派遣の途中で大地震が発生したら・・・

どこに避難すればよいのだろうか？

事業所とどうやって連絡を取れば良いんだろう

利用者さんをどこに避難させればよいのかな？

次のヘルパーはどうなってるのかな？

今日はどこで泊まればよいのだろうか？



自宅はどうなっているのか、心配！

**こんな時どうすればよいのか、事業所として取決めはありますか？**

# 福祉事業所としてのBCPの必要性

## a. 利用者の安否確認をし安全を確保する

できるだけ早いサービスの提供開始、場合によってはふだん以上のサービス提供が必要になることも

## b. 事業所の経営安定

サービス提供が遅くなるほどその分収入も入らず事業所の運営は厳しくなり、場合によっては倒産という事態にもなりかねない

## c. 福祉避難所の早期開設の必要性

東日本大震災のようにサービス提供時間帯に災害が起これば、行政の依頼とは関係なく自主的に避難所を開設する事態になる

# 事業所目線のBCPと要援護者目線のBCP

サービスや各種業務における影響と重要業務の選定。  
災害で各種サービスや業務にどのような影響が出るかを予想する。  
継続すべき事業と休止する事業を振り分ける

事業所としては入所事業は休止できないが、**通所事業は休止しても仕方がない**と考える



一人暮らしの障害者にとって、ヘルパーを頼んでいない時間帯の通所は死活問題

避難所で過ごせない障害児にとって、児童デイは昼間（ふだん学校へ行っている時間帯）も必要になる。



**要援護者一人一人に合わせた事業継続計画が必要**

# 緊急事態発生後の課題

いる人、ある物で対応する

- ・ 職員の多くが出勤できない
- ・ 施設長が出勤できない

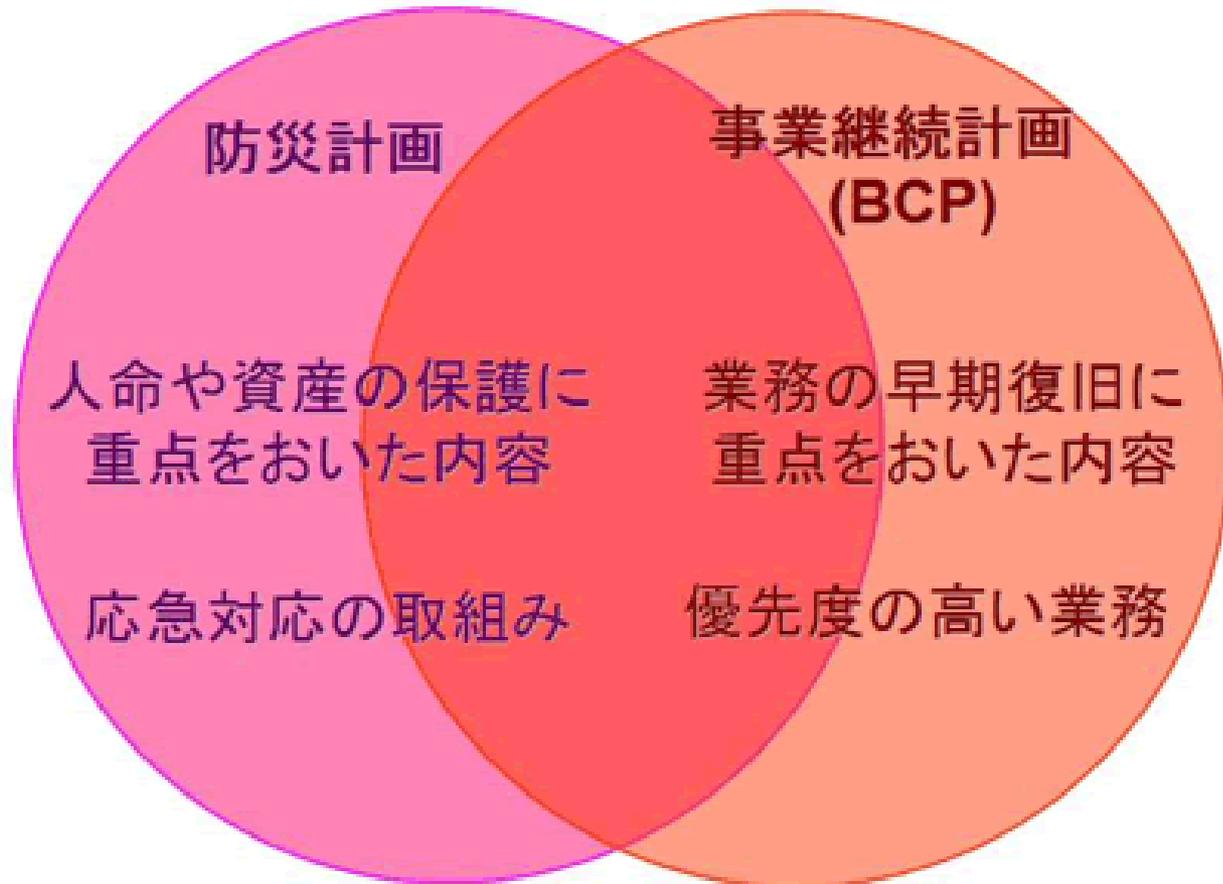
- ・ 施設の建物が倒れて使用できない
- ・ 新たに食べ物、飲み物が手に入らない

- ・ 必要なものを買う現金がない

- ・ サーバが壊れて使用できない

いる人、ある物で対応できるか？

# 防災計画（災害対応マニュアルなど）とBCPの違い



どちらを作るというものでなく、両方を一体的に作る必要がある

# 大規模地震を想定した 事業継続計画書の章立て例

## 第1章 事業継続のための方針

### 第2章 本計画書の想定する緊急事態の 被害及び事業への影響分析結果

- (1) 想定する緊急事態
- (2) 各経営資源に対する被害想定
- (3) 重要な事業と目標復旧時間

### アセスメントの結果を書きます

### 第3章 大規模地震発生後の対応の流れ

- (1) 全体の流れ
- (2) 初動対応
  - 指揮命令システムの明確化
  - 各人による安全確保など
  - 安否確認
  - 被害情報の収集
  - 関係先への連絡と被害状況の確認

### (3) 復旧・事業継続対応

- 復旧対応
- 事業継続対応

要約した、継続・復旧のシナリオを  
書きます

### 第4章 日常管理と今後の改善計画

- (1) 日常管理
  - 情報システムのバックアップ管理
  - 備蓄品の管理

### (2) 今後の改善計画

将来の対策の整備計画を表した  
いわば、「事業継続計画の計画」

### 第5章 教育・訓練

### 第6章 点検・見直し

## 実際に災害が起きたときに誰でもが対応できるスターキットのすすめ

大田区の避難所では各避難所に  
避難所開設キットがある



本部の立ち上げ

施設の安全管理

避難者の受入れ

トイレを準備

傷病者の対応

情報収集・伝達

備蓄物資の活用

その他の対応

マニュアル

## BCPにおける災害時スターターキット

1. 施設の安全確認と使用  
チェックする項目、使用許可の判断基準
2. 本部の立ち上げ  
情報の収集についての確認  
備蓄物資の確認と使用、不足物資の調達について  
会議の持ち方  
指揮命令系統の確認と決済の裁量について
3. 安否確認  
電話が使えるときと使えないときとに分けた対応  
確認すべき内容
4. 福祉避難所  
開設手順  
運営内容  
閉鎖基準
5. 各事業の継続方法  
事業の中止、再開の基準  
利用者への連絡

# 災害対策として最低必要なことは何か？

## 1.必要人員の確保

近隣の人たちや自治会などの協力をもらう

## 2.利用者状況の把握と避難方法の確保

あらかじめ家族状況や他のサービス利用状況、避難先の有無を聞いておく  
避難先が確定していない人についてどうすればよいか話し合っておく

## 3.最低必要な備蓄品の確保

トイレ対策をまず考える  
水や食料は防災用のものでなくてかまわないので、ある程度置いておく